

普及活動検討会実施報告書

亙理農業改良普及センター

実施月日：令和5年10月12日

実施場所：亙理農業改良普及センター会議室

1 検討内容

No	検討項目
1	令和5年度プロジェクト課題の実施状況について ① 新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展 ② 名取市下余田2期地区における農地整備を契機にした地域農業の発展 ③ 次代を担ういちご生産者の環境制御技術等の習得による生産性向上 ④ さつまいもの産地育成

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	0	学識経験者	
市町村	4	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討課題1 （新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展）について	4.4	<ul style="list-style-type: none">・中長期計画の共有は素晴らしい。作業中の課題及び遅れを取らない計画の立て方をもっと指導してほしい。・令和4年度数値目標が未達成の要因を分析し、見える化することで、法人構成員全体で経営課題を共有し、改善策の具体化、実施につなげたことは評価したい。なお、労力不足から十分な対応ができず生産性に影響した例があったが、技術以外にも人材確保、労務管理等の視点も法人の中長期的な経営計画で明確化することは、事業継続の面でも重要と考える。・（農）志賀は新たな品目のぶどうの管理作業が、水稻等の作業と重複し、適期を逃して、収量等に影響を及ぼしたとのことで、労働力や作業体系の見直しに支援をお願いします。	<ul style="list-style-type: none">・中長期計画は法人経営の根幹をなす部分でもあるので、専門家からの助言等もいただきながら、法人が前向きに取り組めるよう作成支援を行い、その実現に向けて支援してまいります。・土地利用型法人においては、水稻・大豆が経営の主体となり、新たに園芸部門を導入する際には労働力の競合が原因で収量や品質に影響を及ぼすことがあります。経営規模や作業体系、労働力調整等、課題の解決に向けて引き続き支援してまいります。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<ul style="list-style-type: none"> ・集落営農法人経営の良さはあるとは思いますが、一般的な法人との比較も必要などではないでしょうか。両法人とも構成員数だけ見れば経営面積が少ないように感じます。規模拡大について具体的に触れておりませんが、気になります。 ・法人経営が今後中心となると考えますので、良い活動だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となった2法人は、小区画や不整形地等、条件不利地も多い岩沼西部地区に位置し、規模拡大が難しい地域で、検討会時の資料にもあったとおり、水稻及び大豆の経営面積はそれぞれ34haと63haで、岩沼東部地区内の法人に比較すると小規模な法人(岩沼西部地区に位置する法人は比較的小規模)といえます。当地域でも高齢化等による担い手不足は顕著で、農地の荒廃が危惧される状況となっていることから、これらの法人が将来的にも地域農業の担い手として牽引できるよう今後とも支援してまいります。
<p>検討課題2 (名取市下余田2期地区における農地整備を契機にした地域農業の発展)</p>	<p>4.4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動における到達目標をもう少し詳しく説明してもらおうとさらに良い。 ・えだまめ栽培のアグリテック推進の先進事例になるような組織づくり支援をお願いします。 ・人口減少社会が進む中、農業生産性の向上等、地域全体で将来ビジョンを明確化し、実行につなげる取組は重要だと考える。ただし、農地整備の工事完了が8～10年後であり、農地の受け手となる法人や関係する個別農家のモチベーションをどう維持するかが課題であり、事業継承も含み、プロジェクト期間終了後も継続的な支援は必要と考える。 ・将来的に水田全てを1法人に任せる目標は、良い活動だと思います。 ・ほ場整備を進めるにあたり、当初地区内の担い手16名へ集積・集約していこうと地区では話されていましたが、その後、地域として4地区あるので4名に絞り込みを図ろうとしておりましたが、事業対効果が基準を大きく下回るということで1法人にして集積・集約を図ろうとまとまった経緯のある地区です。ほ場整備区域内に新たな農業用施設用地(ライスセンター等)を確保していないので、その点も含めよろしくご指導をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容と活動後の成果が一連の流れとなり、到達目標が分かりやく表現できるよう資料作成に努めます。 ・えだまめについては、当初計画していた対象者での取組では無く、新たな対象者での取組に変更となりました。規模拡大に伴う機械装備や出荷体制等の課題について出荷組合やJA等の協力を得ながら解決していきたいと考えています。 ・プロジェクト課題は2年間ですが、プロジェクト課題終了後もフォローアップしてまいります。 ・農地集積・集約が計画通り進むよう、活性化推進委員会、市役所、土地改良区等関係機関と連携し、支援してまいります。 ・対象が想定している新法人の将来像は、まだ、漠然としています。今後、聞き取りを重ねながら構想の具体化を支援してまいります。新たな農業用施設(ライスセンター等)の設置が必要になる場合は、適切な規模の導入となるよう関係機関と連携し、支援してまいります。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討課題3 （次代を担ういちご生産者の環境制御技術等の習得による生産性向上）について	4.8	<ul style="list-style-type: none"> ・「昔からの」や「親世代」の流れを変えて、現代にあった指導になっている。いちご通信に今月（又は来月）の作業があると良い。 ・現生産者や新規就農を目指す方には、勉強会や講習会は良い活動だと思います。 ・栽培技術習得に加え若手いちご農家のネットワークづくりに取り組んでいただいたことはありがたいです。 ・新規就農者のニーズを的確に捉え、着実に必要な取組を行った結果、実績が数値目標を上回っていることは評価したい。引き続き、法人やJAなど関係機関と連携しながら、目標達成に向けて取り組みを進めていただきたい。 ・生産過程において個人経営が良いのか、法人経営にすべきなのか、難しいところであると思います。当市に最近、参入してくるイチゴ生産者は、法人が大半を占めております。栽培技術の革新については、個人・法人は関係なく行っていくものと思いますが、地区外にも目を向けていただきますよう、よろしくをお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の課題は、指導の対象を新規者、後継者に絞ったことで、関係機関、法人の方からの協力が得られ、効果的な勉強会が開催できています。 ・下半期は、大きな変更はなく予定どおりの活動になります。 ・個人、法人どちらも対象にしたいと考えておりますが、勉強会の内容によっては、分けて開催したほうが効果的な場合もありそうですので、状況に応じ勉強会の開催を検討してまいります。 ・法人化については、個々に状況が異なりますので、それぞれの状況を踏まえ、経営方向を選択できるように支援をしていきたいと考えております。 ・管内地域の生産者が、他の地域に就農する場合がありますので、他の普及センターと連携して他地域の情報も共有しながら支援してまいります。
検討課題4 （さつまいもの産地育成）について	4.4	<ul style="list-style-type: none"> ・さつまいも栽培の手引きは期待している。適切な機器や能力の指導もお願いしたい。 ・生産組織の底上げのためには、良い活動だと思います。 ・さつまいも収量の向上、安定化のため、引き続き指導をお願いします。 ・輸出等新たな販路拡大のためにも安定的な収量確保、貯蔵管理技術のさらなる徹底等、技術定着に向けてきめ細やかな支援は引き続き必要と考える。法人の規模拡大と併せて新規就農者の育成、多様な担い手の確保が一大産地を目指す上で、重要なポイントと考える。 ・当市では、〇〇金時とか△△金時とかと言っている生産者がおりますが、栽培ほ場の状況によっては、生産の工夫が必要と感じました。今後、栽培地のほ場条件も必要かと感じました 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培の手引きは、今後も技術だけでなく機械や設備類についても最新の情報等があれば、適宜内容を更新し、充実を図ります。今年度は農業・園芸総合研究所（情報経営部）でも経営調査を行っており、その内容も併せて整理し、新規生産者等に情報提供できるようにしていきます。 ・品質が良いさつまいもを販売するためには栽培技術だけでなく、収穫後の貯蔵管理も重要となるため、その技術定着についても引き続き支援していきます。 ・ほ場条件による生育や栽培管理への影響は大きく、土質や排水条件、雑草の発生程度等によって、品質、収量、作業性が左右されます。それらの向上が図られるよう、現状の聞き取り、生育・収穫状況の把握を行いながら、支援していきます。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・担い手（特に若年層）の定着促進のためにも、技術習得の 	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹後継者を対象とした勉強会を昨年より開催しており

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<p>機会提供や参加者間で切磋琢磨していく勉強会等の交流支援は必要と考える。イチゴ以外もニーズがあればそのような場を設定してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去には、各自治体に農業技師がおり、技術的な面の指導も農業者へ行っておりましたが、今は、120%農業改良普及センターにお願いするような状況です。 今後もよろしくご指導お願いいたします。 	<p>ますが、引き続き支援を継続するとともに、その他作物についても要望の聞き取りを行い、支援を行っていきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内各市町や農業協同組合等関係機関と連携を密にし、管内農業の発展に向けて技術指導及び農業経営支援に努めてまいります。